



# 泗水小だより



泗水小学校  
学校だより No30  
文責 芹川博文  
12月8日(金)

学校教育目標「自ら考え なかまと高め合う 泗水小」

## 「寒いね」と話しかければ「寒いね」と 答える人の いるあたたかさ

俵 万智

本格的な冬の到来。寒いからこそ「あたたかさ」がしみる季節になりました。今回は、「あたたかさ」について振り返ってみます。

## 真剣に学びに向かう あたたかさ ～2年2組研究授業、県・市学力調査～



11月29日(水)、2年2組で森山先生が行った国語の研究授業を全職員で参観しました。単元は「お手紙」で、がまくんとかえるくんの思いの変化について考える子どもたち。その子どもたちの真剣な姿が微笑ましく、見ている側もあたたかくなりました。

また、今週は県・市学力調査もありました。まさに真剣そのもの。先日の持久走大会で感じたピーンと張り詰めた空気と共通のものを感じました。最後まであきらめず「自分に克つ、みんなで克つ」空気を感じ、熱くなる思いがしました。

## もの作りの あたたかさ ～のこぎりの使い方、図書室椅子の修理～



4年生の授業で、地元大工の古田さんに来ていただき、プロから直接のこぎりの使い方を指導していただきました。奇しくも私が泗水中学校にいた頃(20数年前)の教え子だったこともあり、そのまぶしい姿に感動すると同時に、泗水小の子どもたちのために時間を割いて来ていただいたことに感謝の思いで満たされました。

一方、珍しく雨の朝となった今週火曜日、環境整備員の荒木さんが、図書室の椅子のゆるみを修理しておられました。

お二人の姿から、もの作りのぬくもりを感じるとともに、簡単に買い替えるのではなく、自分で工夫して作ったり使ったりする価値と豊かさを改めて学びました。

## 異学年で話し合う あたたかさ ～児童会代表委員会での話し合いから～

11月30日(木)の朝、児童会代表委員会が開かれ、1～6年までの代表が集まって「昼休みの時間は45分間と30分間のどちらが良いか」について話し合いました。「なるほど」と思ったのが、単に「多数決」で決定せず、「少数派の45分間が良いという意見に対して、どうしたら打開案が示せるか」を考えたところです。



学年を超えて、「こうだったらいいのでは」と熱心に意見を出し合う姿に、大袈裟かもしれませんが、これから時代を生きていく上で、まさに必要な力だと感じました。

なお、今回の内容を踏まえ、泗水小 G(児)20 サミット(児童会と校長との意見交換会)を経るなどして検討していく予定です。

## 「あげる」ことの あたたかさ ～子どもたちの姿から～

「先生、これあげます。」何かを人にあげることが大好きな児童が、泗水小にはたくさんいます。写真のさざんかの花もその一つです。(1つはつぼみでしたが、水に浮かべていたら翌日に花開きました。)



今まで色々なプレゼント?をいただきました。折り紙作品、葉っぱ、石、ダンゴムシ・・・。

「あげる」ことに喜びを感じる、そんな素敵な心と行動に、ほっこりした気持ちになります。

## 日々たくさんの あたたかさ

考えてみると、日々たくさんの「あたたかさ」に囲まれて泗水小学校は動いています。下の写真は、先日スクール・ガーデニング・クラブの方が植え替えてくださった中庭の花壇です。



目に見えるもの、見えにくいものはあるかもしれませんが、この1年を振り返り、お世話になった方々の顔を思い出しながら過ごす時間を持ちたいものだと思わされた師走の一週間でした。